
和歌山県における 遠隔集中治療・救急医療支援 -記者会見資料-



和歌山県立医科大学 救急・集中治療医学講座

井上 茂亮



2050年:日本

01

総人口

2020年の日本の総人口は1億2,615万人。予測では2050年までに1億人に減少する見込みです。この減少は20%以上です。

20%減少

02

生産年齢人口

2000年に8,622万人だった生産年齢人口が2050年には5,389万人に減少すると予測されます。医療従事者も不足します。

40%減少

2050年:和歌山県

01

総人口

2020年の和歌山県の人口約92.3万人が、2050年までに約63.2万人に減少する見込みです。これは約3割の減少を意味します。

32%減少

02

生産年齢人口

生産年齢人口（15～64歳）は、2020年から2050年にかけて大幅に減少します。これにより地域の労働力と医療現場の支えが薄れます。

20%減少

03

高齢者人口

65歳以上の高齢者の総人口に占める割合は2025年の約35%から2050年には約39%に上昇する。

4%増加

和歌山県の80%が山間部

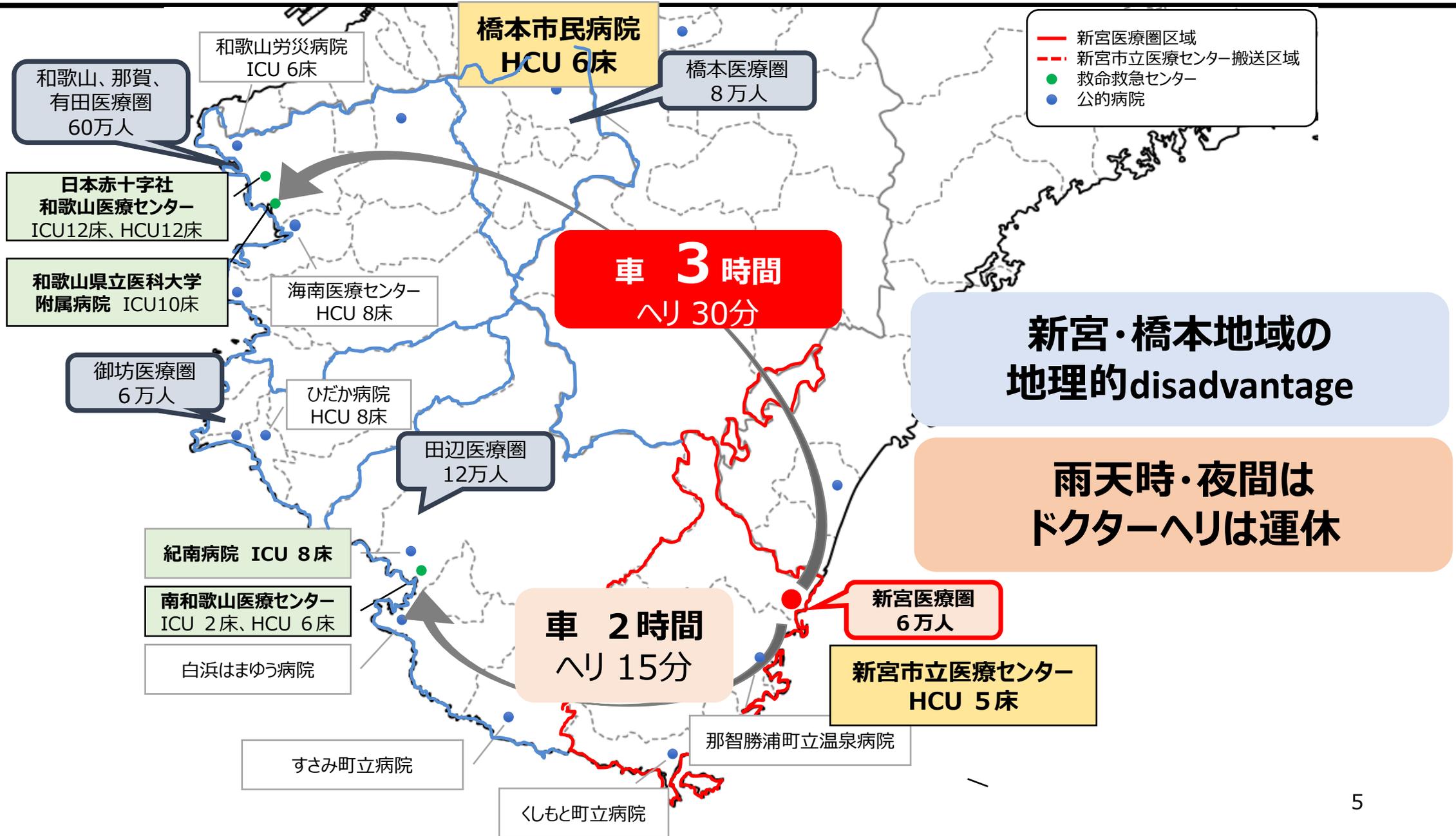


この地図の作成に当たっては、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 250mメッシュ (標高) を使用したものである。
(承認番号 平 12 総使、第 489 号)



帝国書院HPより

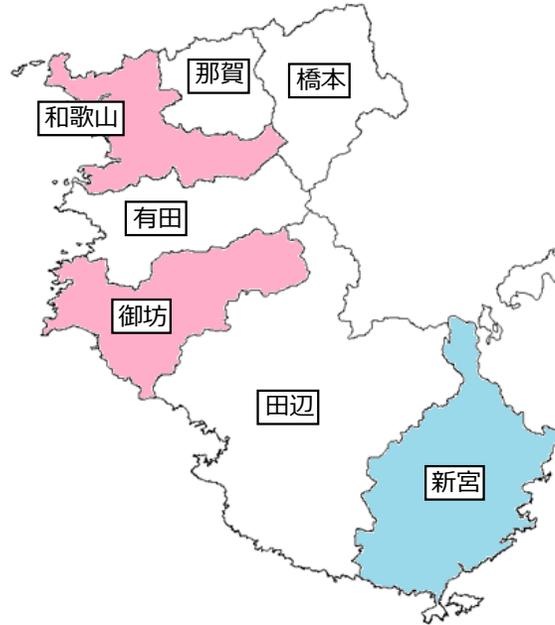
和歌山県内の救急集中治療の現状



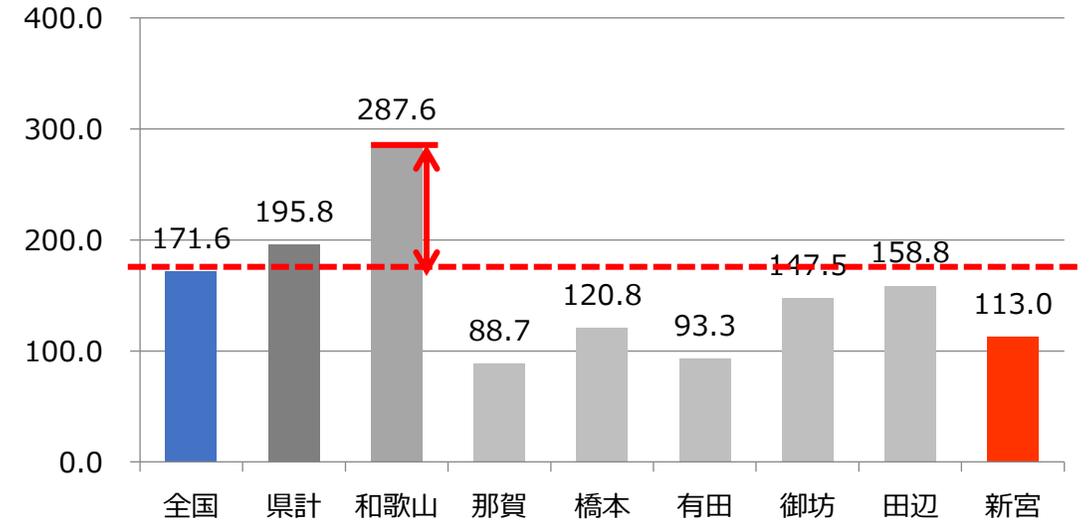
新宮地域は医師数が不足し、医師の高齢化も深刻

〔 本県及び県内二次医療圏の医師少数区域・多数区域の区分 〕

医療圏名	医師偏在指標	全国順位	区分※	
和歌山県	274.9	10	医師多数県	
二次医療圏	和歌山	347.0	17	医師多数区域
	那賀	194.8	180	
	橋本	217.2	113	
	有田	180.8	218	
	御坊	243.9	79	医師多数区域
	田辺	216.5	115	
	新宮	162.2	264	医師少数区域

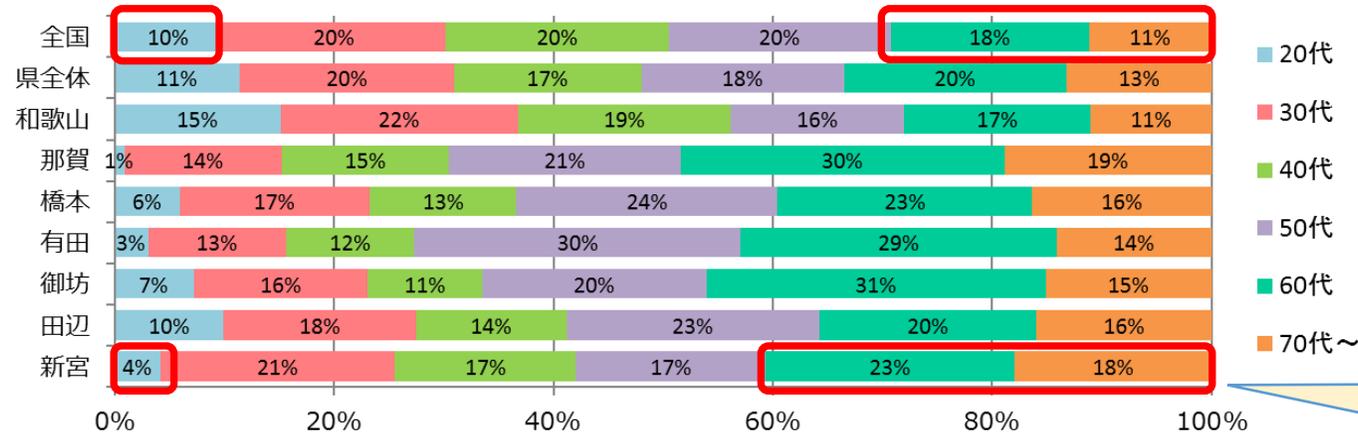


人口10万対医師数（病院のみ）



※ 全国330医療圏のうち、
 上位33.3%（112位以上）が医師多数区域
 下位33.3%（223位以下）が医師少数区域

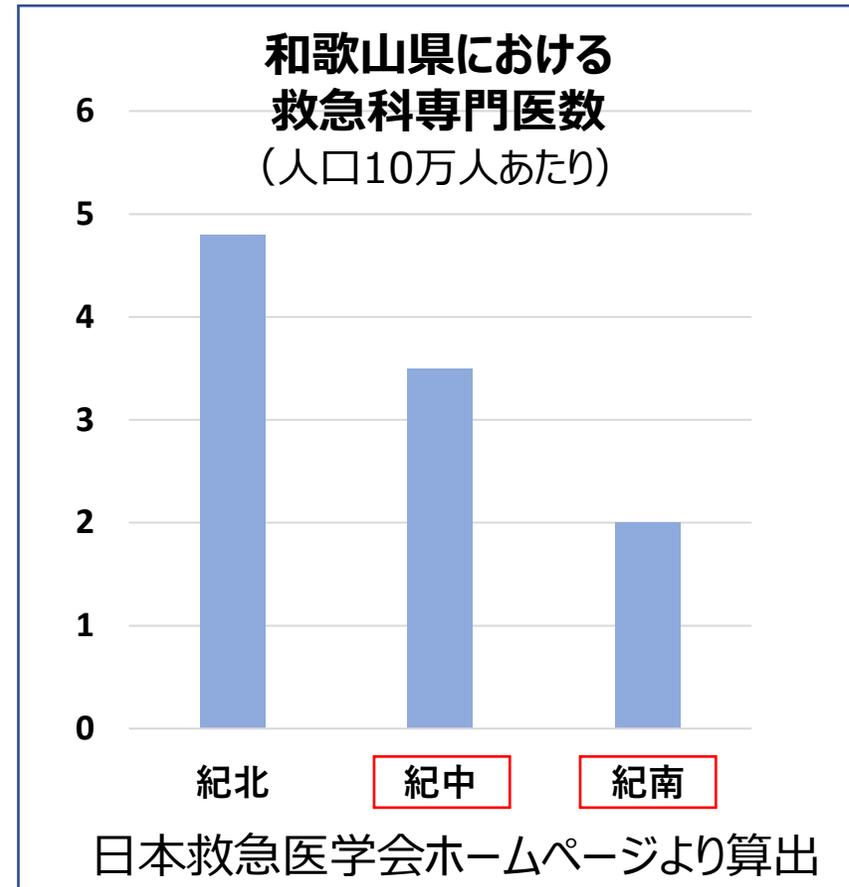
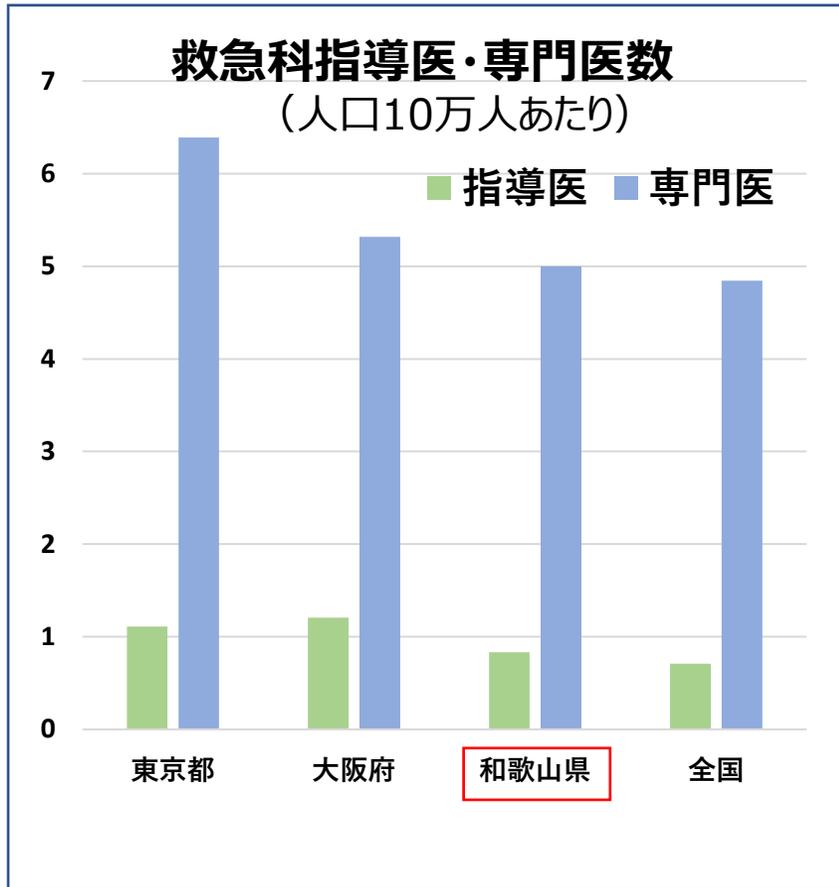
■ 医師の年代別構成



新宮地域の
医師数は減少

新宮地域の
医師は高齢化

和歌山県における救急医の現状



地域での救急医が不足

地域における救急科専門医の育成・供給が急務

これからの救急・集中治療医療体制にむけて

遠隔ICUシステム

県立医科大学附属病院
(高度救命救急センター)

海南医療センター

有田市立病院

ひだか病院

紀南病院
ICU8床 救急医0人

南和歌山医療センター
(救命救急センター)
ICU2床、HCU4床 救急医4人

和歌山労災病院

公立那賀病院

那賀
(11万人)

和歌山
(41万人)

有田 (7万人)

御坊 (7万人)

田辺 (11万人)

橋本 (8万人)

橋本市民病院
HCU6床 救急医2人

新宮 (6万人)

新宮市立医療センター
HCU5床 救急医0人

那智勝浦町立温泉病院

くしもと町立病院

ドクターヘリ運休時間の救急医療を
どのように支援するか



遠隔ICUシステム

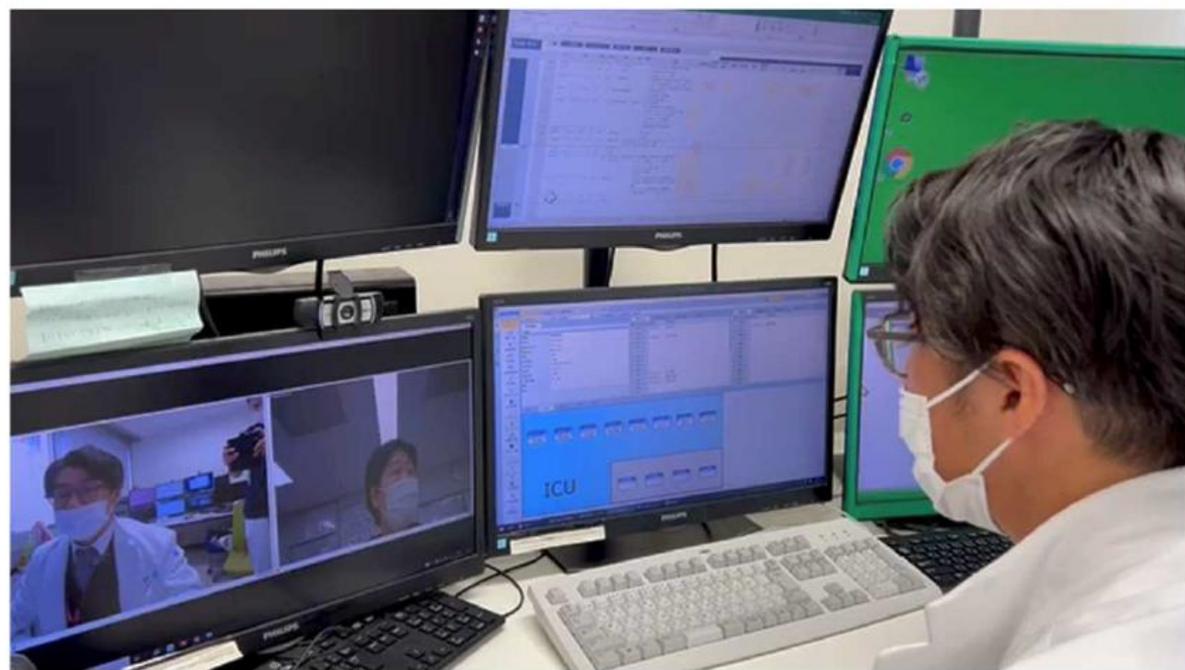


遠隔ICU :

医大と地域の中核病院（のICUやHCUをネットワークで接続）
医大の専門医が24時間体制でモニタリングを行い、被支援施設の診療を人的支援。

→ 医療資源の不足への対応や医療の質の標準化

支援センターと被支援施設間での定期的な情報共有



支援センター機能

集中治療の経験5年以上の医師で支援センターの体制を構築

- ◆ 被支援施設の看護師と定例で患者情報の共有を実施
- ◆ 顔の見える関係の構築
- ◆ 緊急時の相談のために患者情報の共有
- ◆ プロトコル・マニュアルの共有

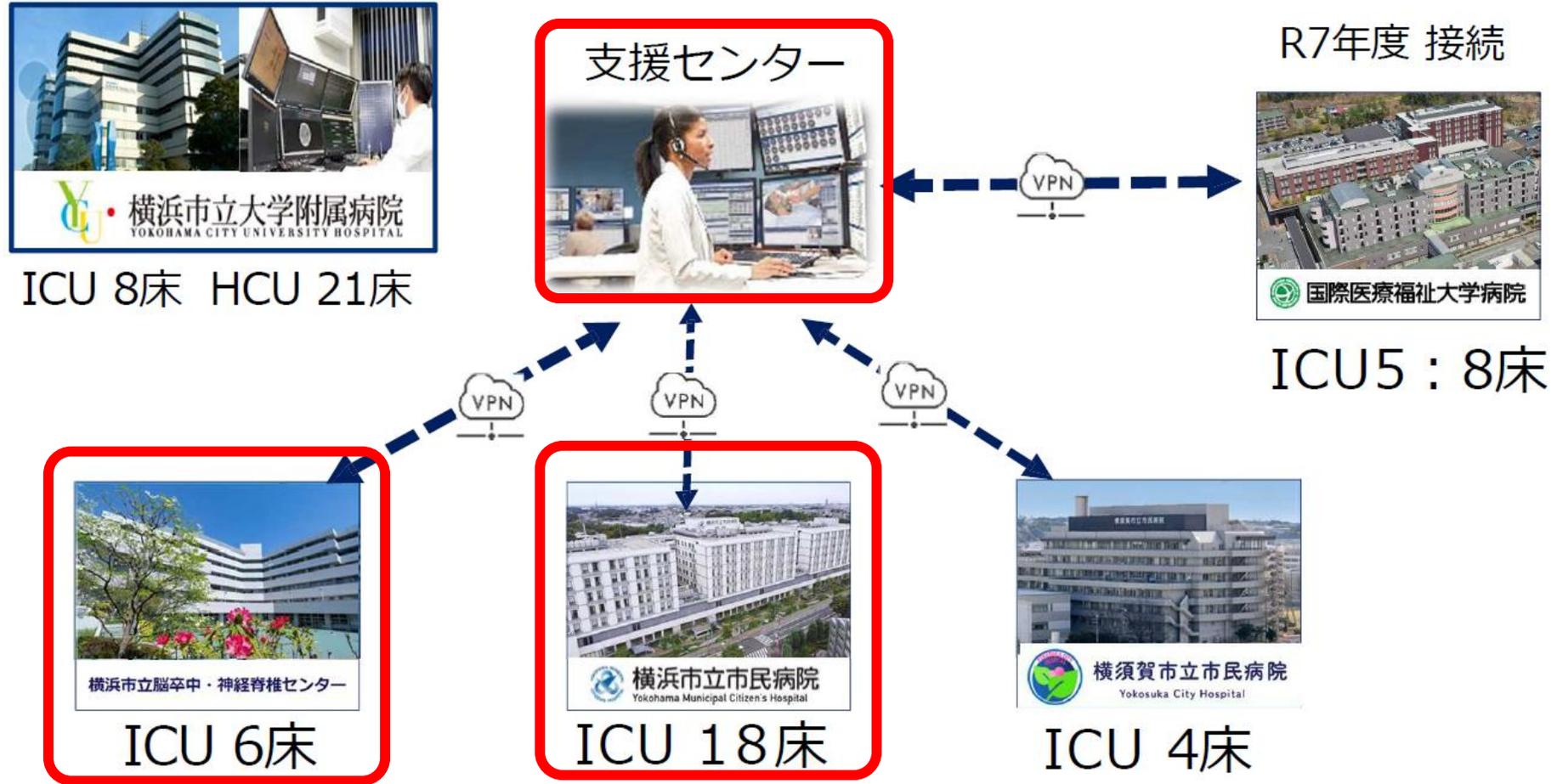


おはようございます。よろしくお願いします。

現地看護師との共同が必要であり、運用体制の整備が必要

2024年5月 遠隔集中治療の現場を視察（和歌山県庁職員とともに）

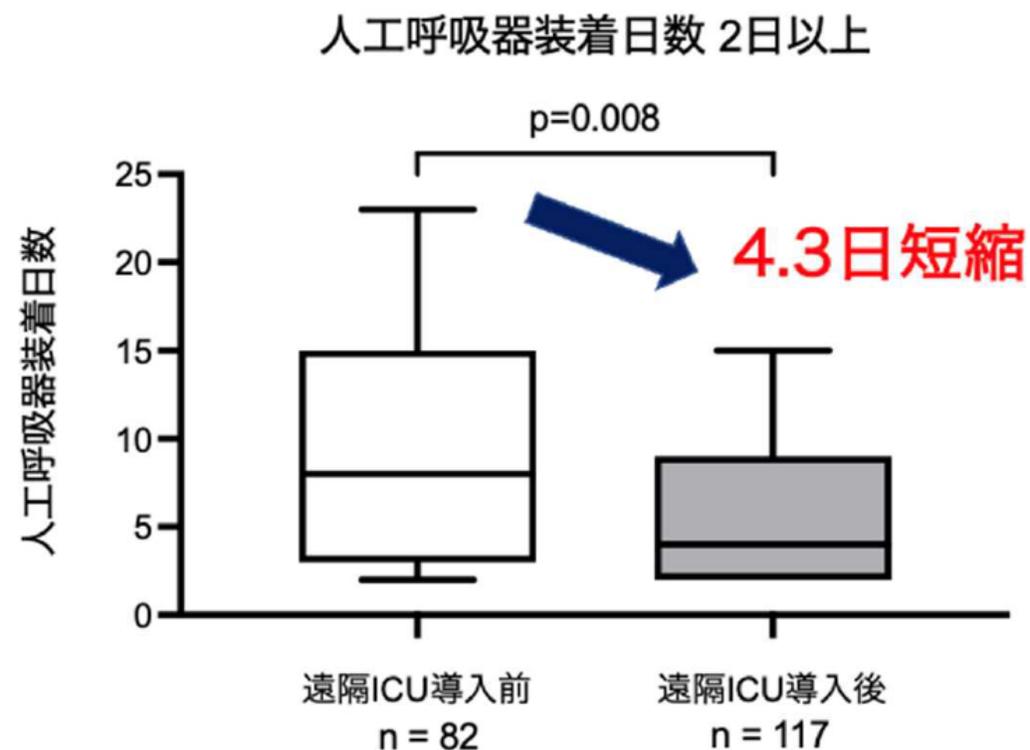
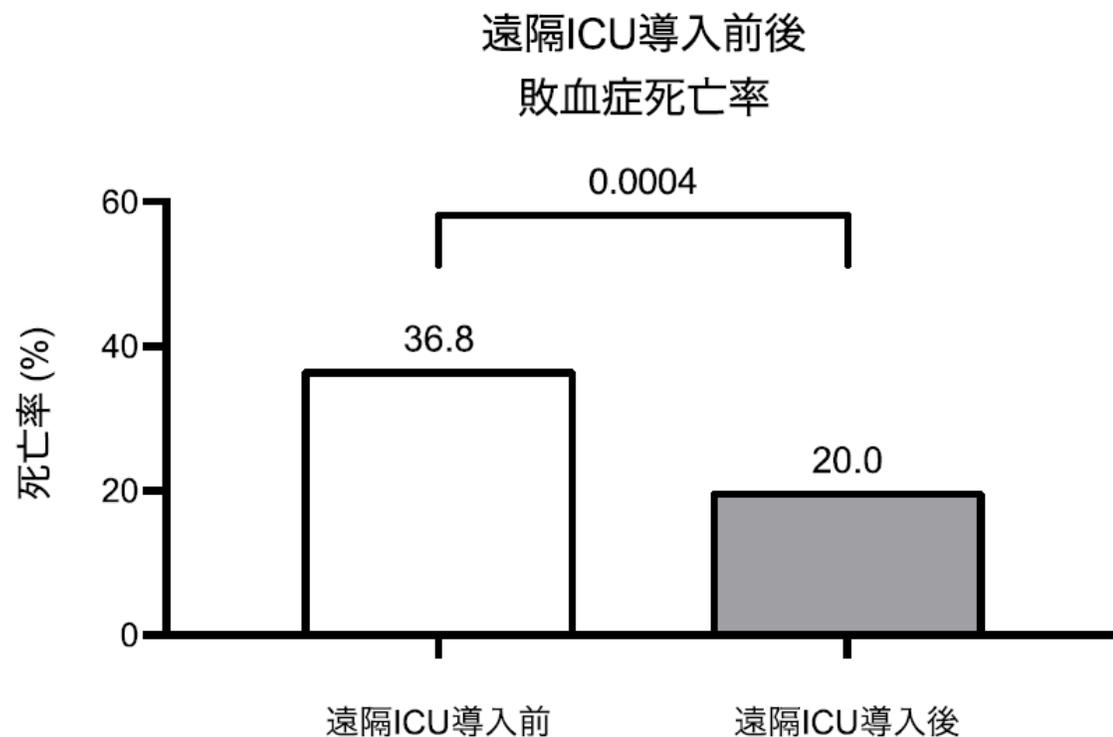
横浜市立大学グループ 遠隔集中治療



遠隔集中治療導入により医療の質も向上

横浜市立大学
高木俊介先生よりスライド提供

- 遠隔集中治療導入により敗血症死亡率が36.8%から20%に減少した。
- 遠隔集中治療導入により3日間以上の人工呼吸装着2日以上の患者の人工呼吸装着日数が4.3日短縮した。(11.8日→7.5日)



新宮医療圏が抱える救急医療の課題



医療スタッフ不足
医師少数地区



介護需要増加
救急患者増加



救急専門医不在

遠隔診療で地域医師の負担を
軽減できるかもしれない

県と大学で、地域医療を支える



地域病院の サイトビジット

新宮医療センター 4回
橋本市民病院 3回



現場に足を運び、ニーズをさぐり、課題を共有する

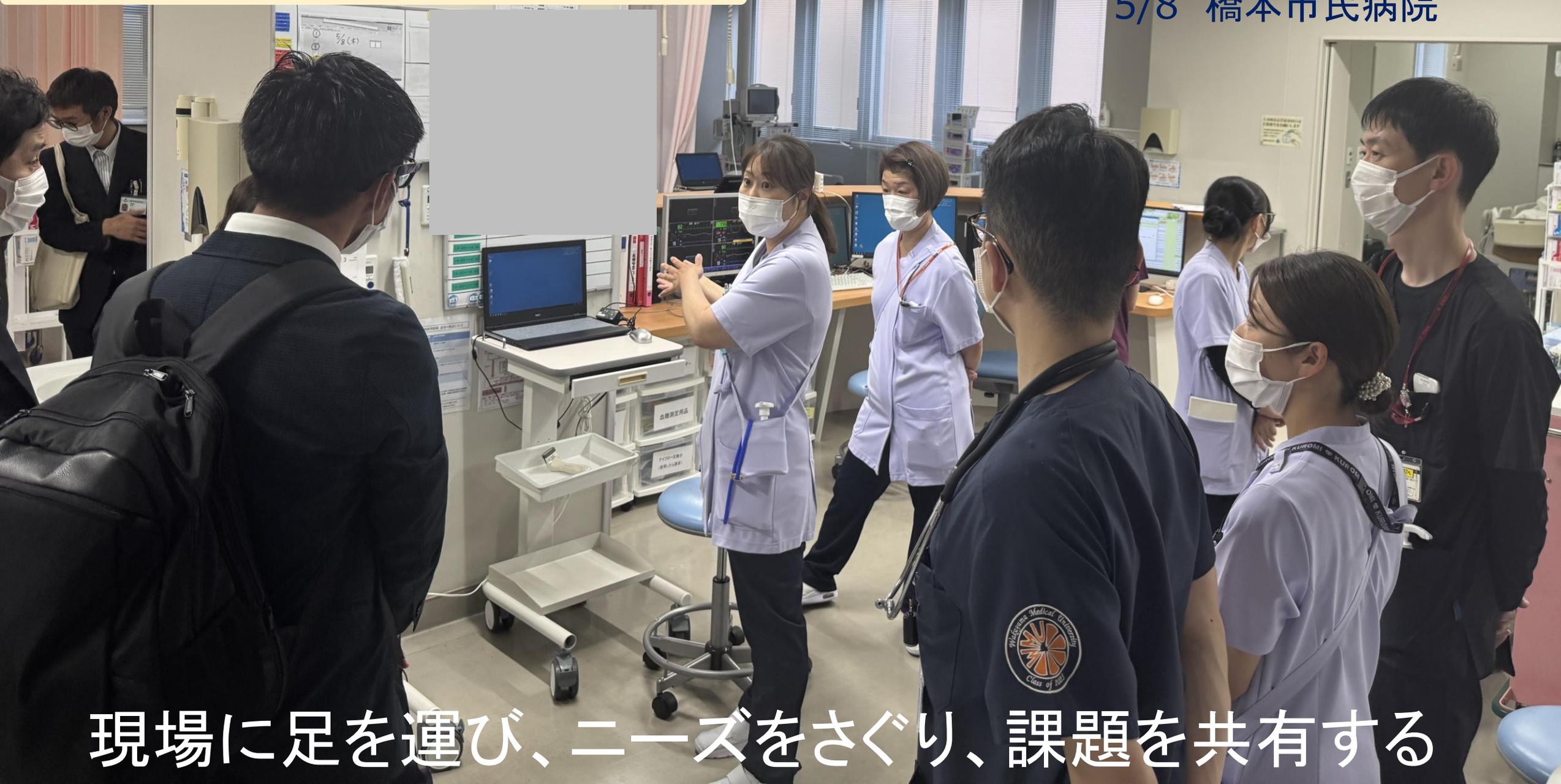
地域病院の サイトビジット

5/8 橋本市民病院



地域病院のサイトビジット

5/8 橋本市民病院



現場に足を運び、ニーズをさぐり、課題を共有する



橋本市民病院
Hashimoto Municipal Hospital

参加費
無料

申込み
不要

市民公開講座

2025年 5月10日 土

13:00~15:00 (受付:12:30~)

会場：橋本市教育文化会館 2階大ホール
(橋本市東家1丁目6-27)

プログラム

2部 橋本医療圏からはじまる 救急医療の未来 -遠隔集中治療の挑戦-

講師 和歌山県立医科大学

いのうえ

しげあき

救急・集中治療医学講座 教授 **井上 茂亮**

プロフィール

東海大学や神戸大学にて、救命救急医学の分野で要職を歴任。2023年10月より和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授、同病院高度救命救急センター長に就任。救急医療の最前線で、次世代を担う人材を育成している。



地域の
理解と協力

新宮遠隔医療 シンポジウム (2025年2月)



これからの救急医療体制を 維持するにはどうしたらいいの？

新宮・東牟婁地域には、救急の専門医がいません。

それでも、医療機関は急病の患者に対応するためお互いが協力し、質の高い医療を提供する必要があります。
シンポジウムでは、医療従事者や行政機関、地域住民と一緒に、最新の救急医療の動きや技術、地域間での協力体制を学び、
将来にわたって救急医療体制を維持する方法を考えましょう。

令和7年 **2月22日(土)** 10:00~13:00

【会場】那智勝浦町立体育文化会館 大集会室
(東牟婁郡那智勝浦町天満 441-8)

【定員】200名程度 ご参加いただくには、事前のお申込みが必要です。

【申込締切】令和7年2月14日(金) 必着

参加費
無料

参加者にはノベルティグッズを
プレゼント!!

基調講演①



全国の救急医療の
現状とこれから地域に
求められること

厚生労働省医政局地域医療計画課
救急・周産期医療等対策室
室長：近藤 祐史氏

基調講演②



限られた医療資源の
効率的な配分のために
-新潟県における
遠隔集中治療支援のありかた-

新潟大学医学部
救命救急医学講座
教授：西山 慶氏

事例紹介



横浜市立病院での
遠隔ICUについて

横浜市立大学附属病院
集中治療部
部長、准教授：高木 俊介氏

新宮医療圏における持続可能な 救急医療体制の構築に向けて

【コーディネーター】

和歌山県立医科大学 救急・集中治療医学講座
教授：井上 茂亮氏

【パネリスト】

厚生労働省医政局地域医療計画課
救急・周産期医療等対策室 室長：近藤 祐史氏
和歌山県福祉保健部 技監：雑賀 博子氏
新潟大学医学部 救命救急医学講座 教授：西山 慶氏
南和歌山医療センター 救命救急科 医長：中島 強氏
新宮市立医療センター 院長：北野 陽二氏
那智勝浦町立温泉病院 リハビリテーション科 部長：坂野 元彦氏
くしもと町立病院 病院長：阪本 繁氏

ご応募はこちらから！

📺📺📺 テレビ和歌山ホームページ内の「救急医療イベント」の



和歌山県立医科大学
救急・集中治療医学講座
教授：井上 茂亮氏



和歌山県福祉保健部
技監：雑賀 博子氏



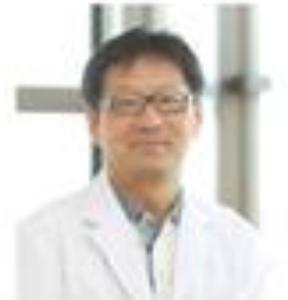
南和歌山医療センター
救命救急科
医長：中島 強氏



新宮市立医療センター
院長：北野 陽二氏



那智勝浦町立温泉病院
リハビリテーション科
部長：坂野 元彦氏



くしもと町立病院
病院長：阪本 繁氏

地域の3病院の院長

今後の和歌山県における救急医療のカタチ

遠隔システムにより
一つの医療圏として連携

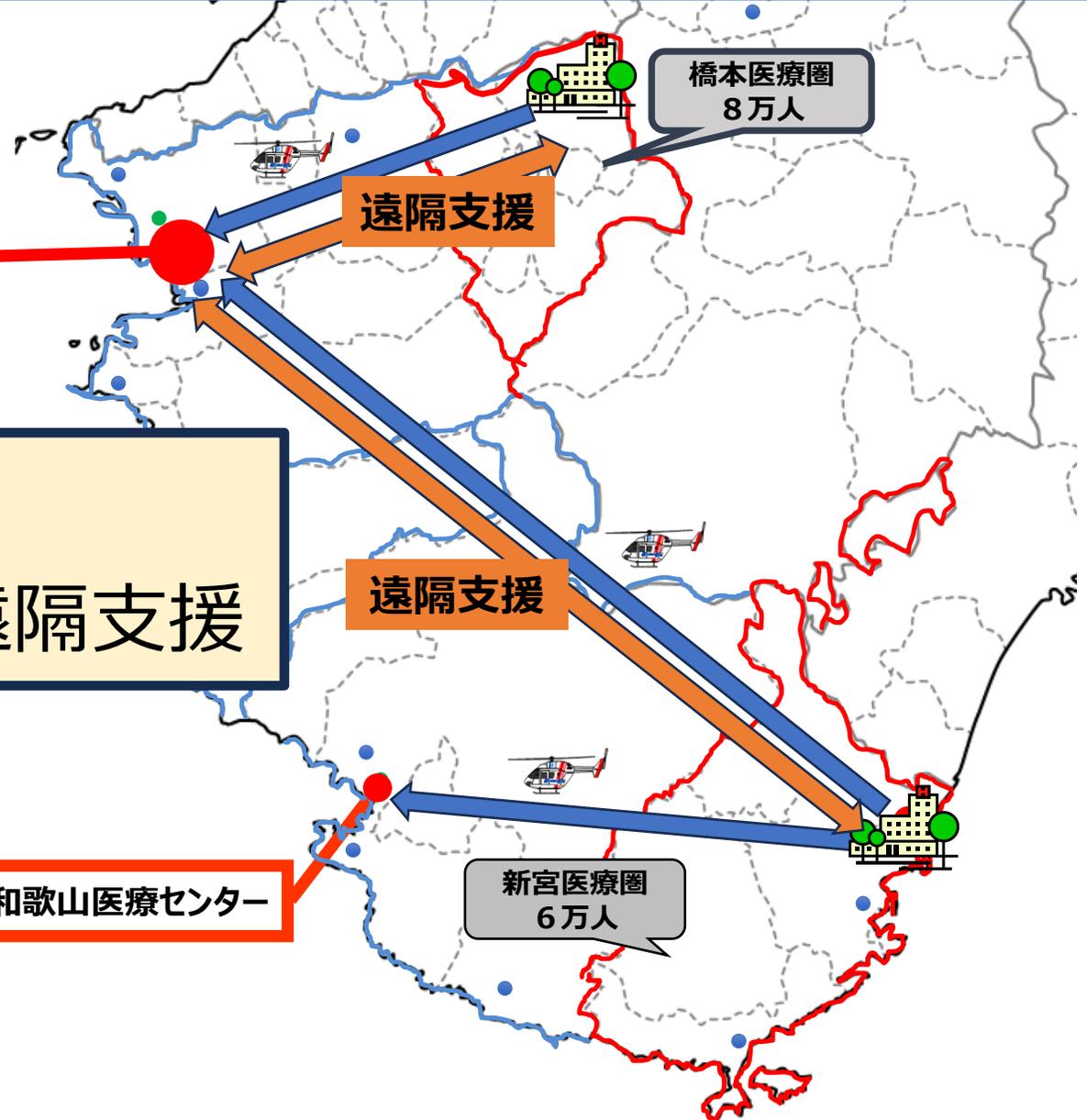
和歌山県立医科大学
附属病院

日本発！
地域で複数医療機関への遠隔支援

南和歌山医療センター

新宮医療圏
6万人

橋本医療圏
8万人



支援予定病院の概要とニーズ

	橋本市民病院	新宮市立病院
病床数	300床	281床 (76床休)
ICU,HCUの数	HCU6床	HCU5床
医療圏の規模	8万 (14万)	6万 (10万)
救急医の数	2名 (整形1名)	0名
医師少数地域	医師少数スポット	医師少数地域
救急車応需率	85%	94%
支援を要する部門	HCU	ER、HCU
支援を要する時間帯	夜間、休日	夜間、休日

ICU相当の重症患者も

若手地域枠からの要望

支援予定病院の支援内容の実際

	橋本市民病院	新宮市立病院
対象部門	HCUのみ	ER、HCU
対象診療科	内科のみ	内科地域枠中心
導入された機器	iBSEN, Teladoc	Teladoc
持続モニタリング (iBSEN)	○2床のみ	×
電子カルテの共有	○	× 青洲リンク使用可
支援時間	(火)(木) 9:00-17:00	
支援内容	ID付与、オーダーまで	助言のみ
カルテ記載	可能	×



➤ **生体モニター、カメラ
呼吸器グラフィックなど
持続モニタリング**

➤ **重症度の計算(EWSなど)
急変予測など**



Teladoc Health[®]

➤ 可動式高性能カメラ

- 遠隔操作可能、高セキュリティ
- 複数人同時に接続
- エコーなど接続可能

➤ 僻地医療、感染症診療、手術支援など



ER、HCUに配備

WEMEX HPより

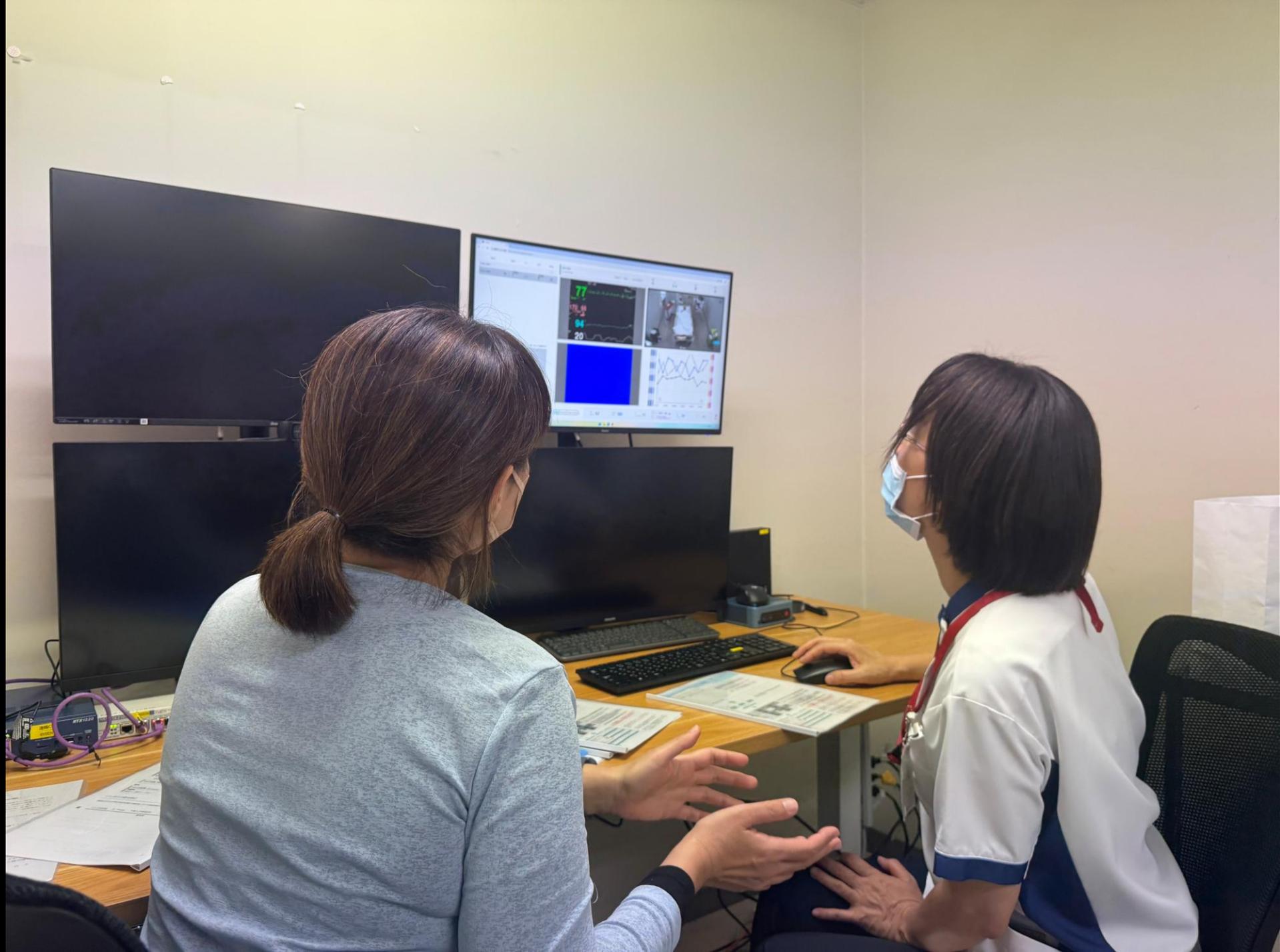
和歌山県立医科大学
中島強先生よりスライド提供

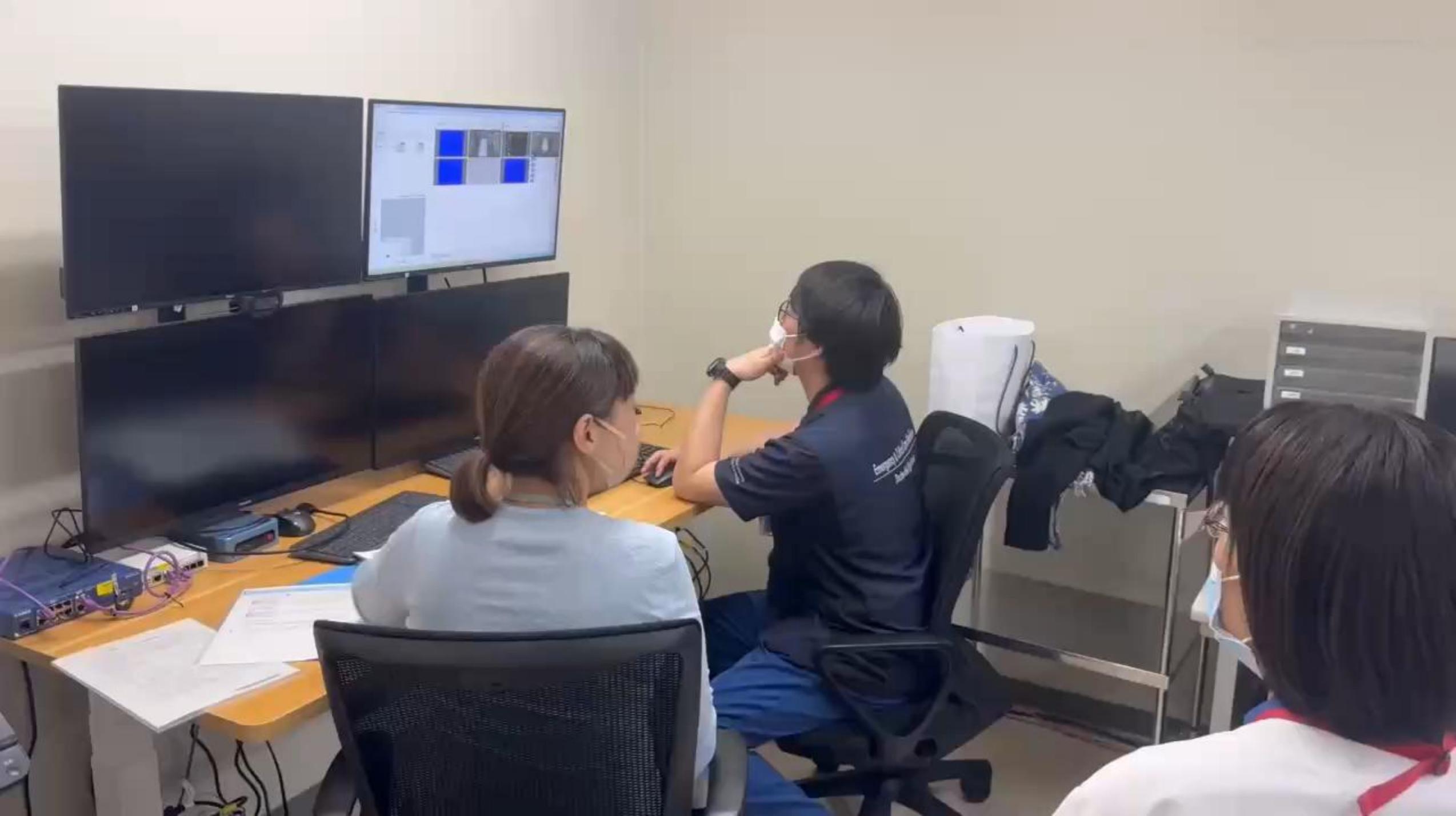
遠隔ICU導入スケジュール

	令和7年										令和8年	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
補助金 (全体)	事業計画		内示				交付申請 交付決定 前着手届				交付決定	
医大				仕様書の精査 (事業者現地調査含む)		新宮 橋本 打合せ	発注 事務	設置 ・導入	納品 テスト		支援開始	
新宮	※ Teladoc院内デモ は 3月に実施			仕様書の精査 (事業者現地調査含む)		医大 打合せ	発注 事務	設置 ・導入	納品 テスト		被支援開始	
橋本		iBSEN 院内デ モ 第1回	iBSEN 院内デ モ 第2回	仕様書の精査 (事業者現地調査含む)		医大 打合せ	発注 事務	設置 ・導入	納品 テスト		被支援開始	









導入時の具体的な支援内容

● 医大支援スタッフ

医師：1人

看護師：1人

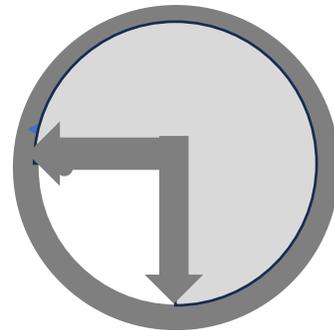
(まずは専属NsまたはICUNs)



● 支援時間

曜日：週に2回（火、木）

時間：日勤帯



● 支援内容



定例カンファ



コンサルト対応

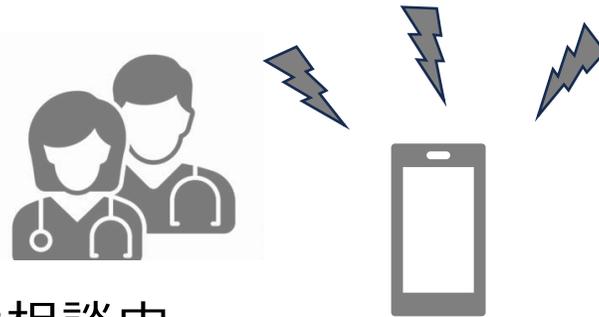
システム構築後、診療科、時間を広げる

具体的な動き

① IP電話に依頼

普段は通常業務

窓口は医師か看護師は相談中

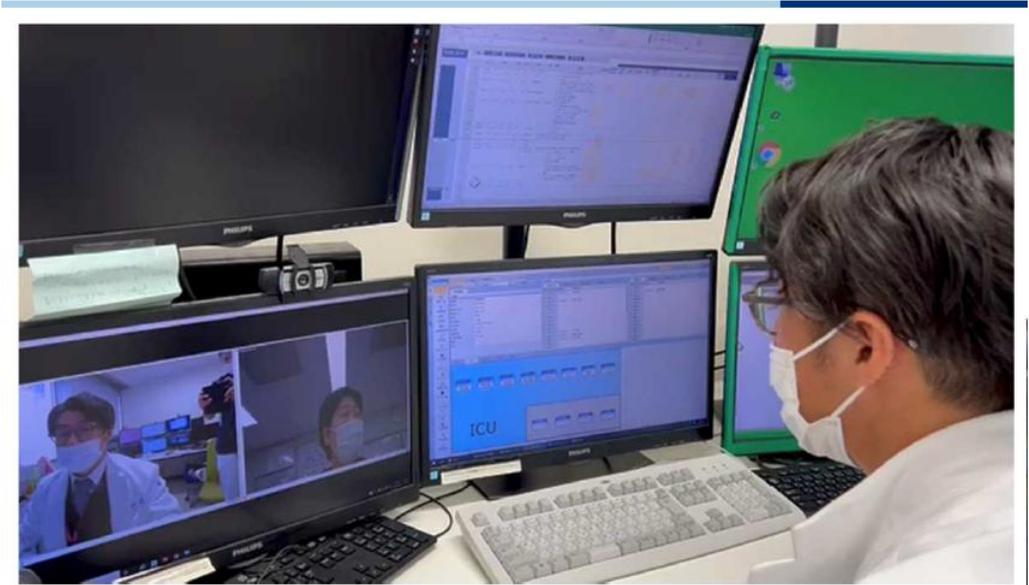


② 支援センターでカルテ共有

橋本市民はカルテ共有

オンラインで患者状況の共有

Teladocでさらに詳細に



③ 介入の有無を含め助言



定例カンファレンス(橋本市民病院)

9:00

顔合わせ、カンファレンス



看護師の申し送りの流れで開始

- 橋本市民病院：Teladoc[®]電源ONで待機
- 和歌山医大：9時に接続

10分以内

まずは情報共有のみ

<稼働後の課題>

- カンファの簡易テンプレ作成
- 日中の定型的なチェックリスト作成
- 夕のカンファの必要性 など



コンサルトフロー（時間内）

コンサルト対象患者発生

必要時主治医に確認



ビデオ通話(iphone: Face Time)で依頼

繋がらない場合073-441-0916

コンサルト内容を簡単に情報提供

医大支援センターと患者情報の共有

iBSEN[®]、Teladoc[®]、JOIN[®]により共有



介入の有無を含め協議

助言からオーダーまで

フォローが必要かの判断



和歌山県立医科大学
中島強先生よりスライド提供

今後の流れ

- 1月20日 橋本市民病院と遠隔救急支援開始
新宮医療センター
- 1月29日 会見、デモンストレーション

大枠だけ決めて、稼働後に調整

- ✓ ID付与、オーダー開始
- ✓ 実績を重ねて、**時間**を延ばせるか
- ✓ 被支援施設に**診療科**を増やす
- ✓ 支援施設の**診療科**を増やす

和歌山県立医科大学 高度救命救急センター Instagram

視聴回数 **1.3万人**

ノート...



eccmwakayama1984 

和歌山県立医科大学高度救命救急センター
投稿324件 フォロワー1.1万人 フォロー中85人

和歌山県立医大医科大学高度救命救急センターでは、自由度の高い研修プログラムを提供し、広く専攻医・スタッフを募集しています。... 続きを読む

www.wakayama-med.ac.jp/med/eccm  [eccmwakayama1984](https://www.instagram.com/eccmwakayama1984)



ご清聴ありがとうございました！



命と

未来を

救う

和歌山県立医科大学高度救命救急センター